



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年2月8日

上場取引所 名

上場会社名 コムシード株式会社

コード番号 3739 URL <http://www.commseed.net/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 CTO (氏名) 羽成 正己

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営管理部長 (氏名) 小倉 誠

TEL 03-5289-3114

四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	501	△31.7	△269	—	△265	—	△321	—
24年3月期第3四半期	733	△13.0	14	△68.7	3	△92.1	0	△96.8

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	△8,606.89	—
24年3月期第3四半期	21.40	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	382	200	52.4
24年3月期	692	521	75.3

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 200百万円 24年3月期 521百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	800	△13.7	△250	—	△250	—	△320	—	△8,571.28

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料3ページ「サマリー情報(注記事項)」に関する事項「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期3Q	37,500 株	24年3月期	37,500 株
----------	----------	--------	----------

② 期末自己株式数

25年3月期3Q	166 株	24年3月期	166 株
----------	-------	--------	-------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	37,334 株	24年3月期3Q	37,334 株
----------	----------	----------	----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により予想数値と異なる場合があります。業績予想前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料2ページ「(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	1
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	1
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	2
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	2
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	2
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	2
4. 四半期財務諸表 .....	3
(1) 四半期貸借対照表 .....	3
(2) 四半期損益計算書 .....	4
第3四半期累計期間 .....	4
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	5
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	5
(5) セグメント情報等 .....	5
5. 補足情報 .....	6
(1) 販売実績 .....	6
(2) 設備投資の計画 .....	6
(3) その他 .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間における我が国の経済状況は、海外経済の低迷や日中関係の悪化などで国内景気が後退局面入りしていましたが、新政権への期待が高まり、その悪化に歯止めがかかる期待が出てまいりました。

一方、モバイルコンテンツ市場を見てみますと、2012年11月の携帯電話の出荷台数は前年同月比96.5%の186万8000台と前年割れをしたものの、スマートフォンは同127.8%の115万1000台を出荷するなど、5ヶ月連続で2桁以上の成長となり、また、出荷に占めるスマートフォンの割合は58.7%となり、スマートフォンの普及がますます進んでいる状況です（JEITA統計資料による）。

このような状況のもと、国内のSNSプラットフォーム向けのソーシャルゲーム市場も引き続き拡大を続けているなか、当社ではモバイル端末向けのソーシャルゲームを中心とした事業展開を進め、当四半期では主力タイトルである「グリパチ」のAndroid版をオープンし、新規サービスの開発をより一層推し進める一方で、代表取締役の異動、またPC用オンラインゲーム事業の終了を含めた既存サービスの見直しを図るなど、市場の変化に対応すべく体制の変更を行いました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における業績は、従来のフィーチャーフォン向け携帯公式サイト売上の落ち込みと、新規タイトルのリリースが遅延したことなどにより、売上高は501,402千円（前年同期比31.7%減）、営業損失269,595千円（前年同期は営業利益14,325千円）、経常損失265,442千円（前年同期は経常利益3,592千円）となりました。

また、特別利益において投資有価証券売却益1,344千円の計上があったものの、特別損失において固定資産売却損5,000千円、減損損失26,177千円、早期割増退職金2,894千円等の計上と、繰延税金資産を全額取崩したことによる法人税等調整額21,430千円の計上により、四半期純損失は321,329千円（前年同期は四半期純利益798千円）となりました。

報告セグメントの業績及び事業におけるサービス分野別の主な取り組みは、以下のとおりであります。

#### (モバイル事業)

①ソーシャルゲームについては、グリー株式会社が運営する「GREE」で展開中のバーチャルホール「グリパチ」については、10月にAndroid版を配信開始したほか、新台の投入やイベントの実施などの各種施策により、登録者数が12月末で約74万人となっております。また、「GREE」および株式会社ディー・エヌ・エーが運営する「Mobage」で展開中の「不思議の森のパン工房」については、各種イベントの投入などにより、引き続き順調にユーザー数を伸ばしております。しかしながら、全体的には新規タイトルの開発および「グリパチ」スマートフォン版の開発を推し進めたことにより、開発費が増加しております。

その他、既存サービスの見直しを行うと同時に、新サービス導入に向けて企画開発を行っております。

②スマートフォンアプリおよび携帯公式サイトについては、スマートフォンアプリにおいて11月よりiOS対応スロットアプリ「めぞん一刻〜夏色の風と〜」を、12月よりAndroid OS対応スロットアプリ「キューインぱちする南国育ち 1st vacation」の提供を開始しました。

また、携帯公式サイトについては、引き続きスマートフォン版への移行およびコンテンツの充実を進めております。

なお、当社オリジナルのパチンコ・パチスロ総合情報サイトである「パチンコ倶楽部」において、パチンコ・パチスロの機種情報やそれらの攻略情報のさらなる充実化に取り組むと同時に、新たなプラットフォームへの対応を進めました。メーカーオフィシャルサイトにおいては、パチンコ・パチスロの新機種導入時にタイムリーな情報提供を行うと同時に、新規アプリの追加、各種コンテンツの見直しを行いました。

③パチンコ店舗向けサービスについては、店舗向けASPサービス（有料店舗情報サービス）のサービス販路の拡大と、今後のラインナップ拡充および企画検討を行いました。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は479,395千円（前年同期比34.7%減）、営業損失は127,037千円（前年同期は営業利益164,299千円）となりました。

#### (その他事業)

トライアル事業としてスタートしたPC用オンラインゲーム「ダークエデン」については、株式会社TOKTOKPLUSと共同で独自および提携による各種広告手法の導入や、アイテム販売サイト「ダークエデンマーケット」における各種販売戦略の試行により、売上の向上に努めましたが利益の確保には繋がりませんでした。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は22,006千円（前年同期はありませんでした。）、営業損失は19,327千円（前年同期は営業損失16,864千円）となりました。

なお、当該事業は運営実績及び市場動向などから判断し、平成24年12月31日をもって事業を終了いたしました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて310,300千円減少し、382,600千円(前事業年度末比44.8%減)となりました。これは流動資産の減少268,891千円と固定資産の減少41,408千円によるものです。

負債は、前事業年度末に比べて11,029千円増加し、182,279千円(前事業年度末比6.4%増)となりました。これは流動負債の増加11,489千円と固定負債の減少459千円によるものです。

純資産は、前事業年度末に比べて321,329千円減少し、200,320千円(前事業年度末比61.6%減)となりました。これは四半期純損失の計上によるものです。

(3) 業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成24年11月2日に公表しました通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期累計期間の営業損失、経常損失及び税引前四半期純損失に与える影響はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度において営業損失43,464千円、当期純損失87,932千円を計上し、当第3四半期累計期間においても営業損失269,595千円、四半期純損失321,329千円を計上いたしました。また、営業活動によるキャッシュ・フローも前事業年度に引き続きマイナスになっている状況であります。当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

モバイル事業においては、スマートフォン市場の成長と従来のフィーチャーフォン市場の段階的な縮小が進行しており、環境が大きく変化しております。このような環境のもと、当社は、ユーザーの市場移行による影響により携帯公式サイトの課金対象会員数も減少傾向にあることから、これに歯止めをかけるべく事業を推進しつつ、スマートフォン向けアプリの企画開発に注力しております。しかしながら、この市場の変化により引き続き当社の業績と成長も大きく影響を受けることから、早急に対策を講じる必要があります。

当社は、当該事象又は状況を解消するために、下記の改善施策を進めております。

収益面については、平成24年4月よりGREE株式会社が展開する「GREE」で、フィーチャーフォン向けバーチャルホール「グリパチ」の全キャリア対応が完了し、展開市場を拡げてまいりましたが、フィーチャーフォンからスマートフォンへのトレンドが大きくシフトする中、事業モデルについてもスマートフォン向けコンテンツビジネスへのシフトを強化し、経営資源を集中させ、さらなるユーザー獲得の強化を図ってまいります。

コスト管理については、製造原価における社内開発の稼働率を向上して外注費を圧縮し、販売費及び一般管理費においても人件費の削減や広告宣伝費の見直しを進めることで、コストの削減を図ってまいります。

財務面については、第3四半期累計期間において損失を計上し、当第3四半期会計期間以降も新たにスマートフォン版「グリパチ」の開発費が増加することから、引き続き手元流動性の低下が見込まれます。このため、事業活動を安定的に行う資金の確保に向け、銀行の借入により資金調達を行いました。今後も、資本政策を含めた新たな資金調達の検討及び交渉を進めてまいります。

これらの改善施策に取り組むことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は、認められないものと判断しておりますので、四半期財務諸表の注記には記載しておりません。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	319,200	107,716
売掛金	123,947	116,504
商品及び製品	7,954	7,798
原材料及び貯蔵品	7,246	5,186
その他	92,404	44,641
貸倒引当金	△19	△7
流動資産合計	550,732	281,841
固定資産		
有形固定資産	40,825	28,084
無形固定資産	29,939	28,472
投資その他の資産		
破産更生債権等	40,380	39,232
その他	71,402	44,201
貸倒引当金	△40,380	△39,232
投資その他の資産合計	71,402	44,201
固定資産合計	142,167	100,759
資産合計	692,900	382,600
負債の部		
流動負債		
買掛金	55,818	58,458
短期借入金	—	50,000
未払法人税等	3,101	2,005
その他	78,855	38,800
流動負債合計	137,775	149,264
固定負債		
退職給付引当金	11,538	11,258
役員退職慰労引当金	19,329	19,329
その他	2,606	2,427
固定負債合計	33,474	33,014
負債合計	171,249	182,279
純資産の部		
株主資本		
資本金	568,883	568,883
利益剰余金	△29,877	△351,207
自己株式	△17,355	△17,355
株主資本合計	521,650	200,320
純資産合計	521,650	200,320
負債純資産合計	692,900	382,600

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	733,670	501,402
売上原価	425,871	443,701
売上総利益	307,798	57,700
販売費及び一般管理費	293,473	327,296
営業利益又は営業損失(△)	14,325	△269,595
営業外収益		
受取利息	73	28
業務受託料	—	3,000
貸倒引当金戻入額	—	1,148
その他	1	1
営業外収益合計	75	4,177
営業外費用		
支払利息	72	24
貸倒引当金繰入額	8,450	—
訴訟関連費用	2,285	—
営業外費用合計	10,808	24
経常利益又は経常損失(△)	3,592	△265,442
特別利益		
投資有価証券売却益	—	1,344
特別利益合計	—	1,344
特別損失		
固定資産売却損	—	5,000
固定資産除却損	—	10
減損損失	—	26,177
早期割増退職金	—	2,894
本社移転費用	1,076	—
特別損失合計	1,076	34,082
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	2,516	△298,181
法人税、住民税及び事業税	1,717	1,717
法人税等調整額	—	21,430
法人税等合計	1,717	23,148
四半期純利益又は四半期純損失(△)	798	△321,329

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益計 算書計上額 (注) 2
	モバイル事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	733,670	—	733,670	—	733,670
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	733,670	—	733,670	—	733,670
セグメント利益又は損失(△)	164,299	△16,864	147,434	△133,109	14,325

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△133,109千円は、主に管理部門に係る人件費及び経費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益計 算書計上額 (注) 2
	モバイル事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	479,395	22,006	501,402	—	501,402
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	479,395	22,006	501,402	—	501,402
セグメント損失(△)	△127,037	△19,327	△146,365	△123,230	△269,595

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△123,230千円は、主に管理部門に係る人件費及び経費であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. その他事業であったPC用オンラインゲーム事業を、平成24年12月31日をもって終了いたしました。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「モバイル事業」セグメント及び「その他事業」セグメントにおいて、想定していた収益が見込めないため、事業用資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。当該減損損失の計上額は、「モバイル事業」セグメントにおいて19,650千円、「その他事業」セグメントにおいて6,527千円であります。



## 5. 補足情報

## (1) 販売実績

当第3四半期累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	売上高(千円)	前年同四半期比(%)
モバイル事業	479,395	65.3
その他事業	22,006	—
合計	501,402	68.3

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. モバイル事業による主な販売先は、一般ユーザーであります。

3. モバイル事業は、各携帯電話キャリア及びプラットフォーム提供会社の情報料回収代行サービスを利用して一般ユーザーに有料情報サービスを提供するものであります。前第3四半期累計期間及び当第3四半期累計期間の主要な売上は、次のとおりであります。

相手先	前第3四半期累計期間 (自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)		当第3四半期累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	
	売上高(千円)	割合(%)	売上高(千円)	割合(%)
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	273,235	37.2	100,924	20.1
KDDI株式会社	147,695	20.1	95,372	19.0
グリー株式会社	2,359	0.3	91,722	18.3

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## (2) 設備投資の計画

前事業年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第3四半期累計期間に著しい変更があったものは、次のとおりであります。

モバイル事業において、既存サービスの向上と新規サービスの対応のため、設備の新設を計画しておりましたサーバー(投資予定金額6,000千円)は、計画の見直しにより当事業年度の新設を中止することとしました。

## (3) その他

特記事項はありません。